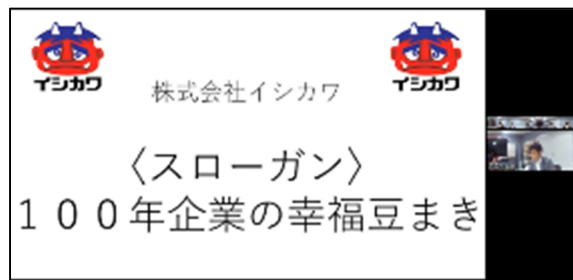


株式会社イシカワ 製造業(豆菓子製造販売)／廿日市市

●「100年企業の幸福豆まき」をスローガンに5チームが取り組みをスタート

株式会社イシカワは、豆菓子の製造を行っています。今回は、2027年に設立100周年を迎えるにあたり、社内でも社会でも幸福の豆をまけるような企業を目指そうと「100年企業の幸福豆まき」のスローガンを掲げて、働きがい向上に取り組みました。当社では推進本部と以下5チームで、働きがい向上を推進しました。

1. MVV(Mission/Vision/Value)策定・浸透チーム
2. 人材育成チーム
3. コミュニケーション活性化チーム
4. 業績向上チーム
5. 職場環境改善チーム



●5チームによる「働きがい向上」の取組内容

1つ目の「MVV(Mission/Vision/Value)策定・浸透チーム」を立

ち上げた背景には、社員の会社理念や方針への理解不足がありました。社員全員が同じ方向を向いて働ける環境を作るために、社員一人ひとりが自分の価値観 (Value) リストを考えて公表し、それを元に各部署のスローガンを作成する活動などに取り組みました。

2つ目の「人材育成チーム」は、仕事を通じた成長を自己実現し、仕事に対する誇り、組織に対する信頼を促すことで、自律型社員を育成することを目標に、社長の石川がリーダーを務めています。現在、評価制度を作成中で、来年以降の運営に備えています。

3つ目の「コミュニケーション活性化チーム」は、部署間でのコミュニケーション不足や経営者と現場の距離感を課題として、挨拶などのストローク運動 (※1) や他部署メンバーのインタビュー情報の発信、自社商品の店舗購入補助、地元生産者との交流などの取組を実施しました。特に、社員同士の挨拶は意外なほど成果があったと思います。またこれらの取組では Slack (※2) を活用して、コミュニケーションを促進する工夫も行いました。

4つ目の「業績向上チーム」は、「業績を上げることなくして、社員の働きがい向上は成しえない」と考えて、営業部と商品企画部のメンバーを中心に設置されました。具体的な取組内容としては、県内の他の企業とのコラボレーションです。例えば、上万糧食製粉所とコラボして商品開発したきなこ大豆製品などがあります。商品企画部以外の社員も企画に参加し、様々なコラボ商品が生まれる過程の中で、新たなやりがいや達成感を生まれることを期待して取り組みました。今後もコラボ商品の実現に向けて動いていく予定です。

5つ目の「職場環境改善チーム」は、働きがいの土台となる「働きやすい環境づくり」に取り組みました。新しい工場のハザードマップや災害防止対策を進め、社員が安心して働ける環境を整備しています。

●振り返り

【推進担当者】社内の情報共有が活発になり、社員同士の挨拶や世間話が増え、職場の人間関係が向上したと思います。また商品開発や自己の価値観を見つめ直したことを通じて仕事のやりがいを再認識した社員もいました。一方で、課題としては、Slack 導入率の向上や、社長と現場の社員の”想い”の更に深いすり合わせ、評価制度やハザードマップ等の土台を最大限に活用する手法の確立などが挙げられると思います。

【社長】若手のチームリーダーの熱意が会社を変える原動力だと感じています。従来理念 (Mission/Vision) に社員の今の時代に合った価値観を策定してもらい、さらに部署の Value を策定し、イシカワの新たな理念 (MVV(Mission/Vision/Value)) を策定しました。これからも働きがい向上の取組を進め、創業100年に向け

て変化し続けていきたいと思っています。



営業部 竹野下 諒 氏



代表取締役 石川 直寛 氏

用語解説

※1 ストローク運動	相手の存在を認める全ての言動をストロークと呼びます。挨拶や笑顔といったポジティブな行動が職場の関係性を改善し、社員の心理的安全性やウェルビーイングに有効とされています。
※2 Slack	ビジネス向けのコミュニケーションツールです。チャット機能を中心に、グループチャット、ファイル共有など、さまざまな機能を備えており、チーム内のコミュニケーションや情報共有・タスク管理などが行えます。